

東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 准教授）
研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二、藤井良樹、高橋良介（ANGEL LIFE NAGOYA）

研究要旨

クリニック検査については、広域の地方圏である岐阜県において、岐阜市内の利便性が高いクリニックから協力の承諾を得て、検査提供を行った。また名古屋市の利便性の高い繁華街の性感染症クリニックからも協力を得た。2 クリニックで総計 31 名の利用があり、過去に HIV 検査の経験がないものも 19.4%いた。HIV の陽性件数は 0 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 8 名の陽性が見られた。

ゆうそう検査は、総計 79 キットを配布した。コミュニティセンターrise での対面配布が 64 件、WEB での配布が 15 件であった。アンケートに回答したものは 71 名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは 60 名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 7 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 71 名のうち、49 名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 49 名の属性については、35 歳未満が 55.1%を占めた。愛知県の居住者が 89.8%であった。生涯初の検査経験割合は 16.3%であった。過去 1 年の検査経験がなかった人は全体のうち 71.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.6%を占めた。

新型コロナウイルス感染症に伴う自粛宣言に対応しながら、クリニック検査とゆうそう検査の同時進行に課題があったが、今後よりよい棲み分け法も考えて、検査機会の拡大を検討していく必要がある。

A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東海地域では大阪や中四国で成功を収めてきた民間医療機関を活用した HIV と梅毒の検査提供（通称クリニック検査）をモデルとし展開することとした。

また自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査もコミュニティセンターでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選

択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

B. 研究方法

1) クリニック検査

大阪や中四国で成功を収めてきたクリニック検査の先行事例を解析し、その方法を参考に実施した。東海地域の中でも、面積が広く、検査アクセスに課題がある岐阜県において民間医療機関（1 クリニック）を開拓、協力を依頼し、新たな検査プログラムを実施する。また名古屋市内の利便性の高い場所に開所している民間医療機関（1 クリニック）にも協力を依頼し、実施した。

令和 3 年 1 月 12 日から 2 月末日まで HIV 検査と梅毒の検査提供を行った。医療機関への協力依頼、コミュニティペーパーやポスターなどの紙資材での情報アウトリーチ、出会い系アプリや Twitter 等 SNS アプリを使った広報は

ANGEL LIFE NAGOYA が担当した。

受検者には検査提供医療機関で自記式アンケートも実施し、協力を要請した。

2) ゆうそう検査

コミュニティセンターでの対面型配布は250件を予定した。WEB 申し込み型の配布は50件を予定した。

2020 年 12 月 17 日から配布を開始し、対面型で 64 件、WEB 申し込み型で 15 件の実績があった。名古屋の大型ハッテン施設が 8 月から閉館しており、その施設を利用している層の受検促進が行えていない事も受検者増加の歩留まりの要因になっていると思われる。

本研究計画は名古屋市立大学看護学部倫理審査委員会により実施の承認を得た。

C. 研究結果

1) クリニック検査

これまでの東海地域で実施してきた各種の調査データを用い、啓発戦略を策定した。東海地域では、2003 年より名古屋医療センター、ANGEL LIFE NAGOYA、行政（名古屋市）が連携して大規模検査会を実施してきている。

その際にも検査を知るきっかけは SNS、口コミ、出会い系アプリでの広告が最も多いことに鑑み、本プログラムでも MSM 向けの出会い系アプリ広告を活用した。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。岐阜市内のクリニックは、このような検査提供は初めての試みであったが、5 名の利用者がいた。また名古屋市のクリニックは 26 名の利用があった。受検者の詳細については資料を示した。

2) ゆうそう検査

1. 郵送検査キットの配布日・概要

配布期間：2020 年 12 月 17 日～3 月 15 日

表 1 郵送検査利用者の概要

	地域 CBO コミュニティセンター	愛知 ANGEL LIFE NAGOYA rise
a 配布数		79
b 受検者アンケート回答者数		71
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		60
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		75.9%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		58 (96.7%)
抗体検査結果		
☐ HIV感染症		
e 判定不能者数（割合 e/c）		0 (0.0%)
f 陽性数（割合 f/c）		0 (0.0%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		0.0 (0.0%)
☐ 梅毒		
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.7%)
h 陽性数（割合 h/c）		7 (11.9%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.5 (4.2%)
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		49 (81.7%)
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数（割合 j/c）**		48 (80.0%)

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に掛けて求めた。

** j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

*** すべての集計より再受検の重複は除いた。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。

総計 79 キットを配布し、コミュニティセンターrise での対面配布が 64 件、WEB での配布が 15 件であった。アンケートに回答したものは 71 名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは 60 名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 7 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 71 名のうち、49 名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。同意を得た受検者とアンケートに回答したが受検していないと考えられる人との比較集計結果を表 2、表 3 に示した。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送した者 49 名の属性については、35 歳未満が 55.1%を占めた。愛知県の実住者が 89.8%であった。生涯初の検査経験割合は 16.3%であった。過去 1 年の検査経験がなかった人は全体のうち 71.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.6%を占めた。

D. 考察

クリニック検査やゆうそう検査いずれも、資材は作成したが配布直前から緊急事態宣言による時間短縮があり、主要なゲイバーがほとん

ど営業しておらず、紙媒体の効果がなかった。愛知県と名古屋医療センターが行っている無料 HIV・性感染症検査会に過去 5 年は毎年 600～700 名の MSM が受検していた。検査意識の高い層をクリニック検査やゆうそう検査に受検促進する広報が不十分であったといえる。

東海地域はクリニック検査を実施した。名古屋と岐阜で 1 件ずつクリニックを発掘した。開始当初はクリニックでの受検者がいなかったため、ゆうそう検査の広報は控えた。さらに、出会い系アプリでの広報の展開などを実施した結果としてクリニックは 31 名の受検者がいた。

なお、受取者のなかでパートナーの分も持っていきたいという問い合わせがあったが、断った。来場者本人や申請者以外の検査キット受け取りに関しては、今後の課題である。

他研究班による検査提供や、本研究班のクリニック検査の時期とかぶったなかでの郵送検査であったことから、次年度は他の検査提供機会と調整する必要がある。

E. 結論

新しく新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。初めての試みであったが 5 名の利用があった。また名古屋市のクリニックでも 26 名の利用があった。

ゆうそう検査とクリニック検査を同時期に実施することによる受検促進の困難があった。次年度以降はうまくすみ分ける方法を考えていく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.
DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) Ryohei Terao, Noriyo Kaneko (Equal contribution): Survey of School Nurses' Experiences of Providing Counselling on Sexual Orientation to High School Students in Japan. *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, doi: 10.1515/ijamh-2019-0167. 2020.

- 3) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 4) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 5) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020
- 6) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020.
doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003

2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection(HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

3. 学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=U をめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総, 柏木恵莉, 土屋亮人, 高野操, 青木孝弘, 潟永博之, 菊池嘉, 岩橋恒太, 金子典代: 乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順, 金子典代, 木南拓也, 柴田恵, 岩橋恒太, 藤原孝大, 鈴木敦大, 小山輝道, 高久道子, 高久陽介, 市川誠一, 張由紀夫, 生島嗣: ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその

効果について. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 4) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代：成人前期（20 歳代）MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦：NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

		アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson
		n=22		n=49		n=71		カイ2乗
年齢階級								
	24歳以下	4	18.2%	4	8.2%	8	11.3%	0.34
	25-34歳	6	27.3%	23	46.9%	29	40.8%	
	35-44歳	6	27.3%	13	26.5%	19	26.8%	
	45歳以上	6	27.3%	9	18.4%	15	21.1%	
国籍 ¹⁾								
	日本	22	100.0%	44	89.8%	66	93.0%	0.32
	海外	0	0.0%	5	10.2%	5	7.0%	
居住地								
	福井県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	0.32
	岐阜県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
	愛知県	18	81.8%	44	89.8%	62	87.3%	
	三重県	2	9.1%	1	2.0%	3	4.2%	
	奈良県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
	福岡県	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	鹿児島県	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	沖縄県	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	
性別								
	男性	21	95.5%	49	100.0%	70	98.6%	0.31
	女性	1	4.5%	0	0.0%	1	1.4%	
	トランスジェンダー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
セクシュアリティ								
	ゲイ（男性同性愛者）	18	81.8%	40	81.6%	58	81.7%	0.82
	バイセクシュアル（両性愛者）	3	13.6%	8	16.3%	11	15.5%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	
居住形態								
	独居	14	63.6%	24	49.0%	38	53.5%	0.31
	同居	8	36.4%	25	51.0%	33	46.5%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
これまでのHIV検査（エイズ検査）経験								
	ある	14	63.6%	41	83.7%	55	77.5%	0.07
	ない（今回が初めての検査）	8	36.4%	8	16.3%	16	22.5%	
過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験								
	ある	5	22.7%	14	28.6%	19	26.8%	0.77
	ない	17	77.3%	35	71.4%	52	73.2%	
過去1年の受検場所 ²⁾ （複数回答）								
	保健所	4	18.2%	11	22.4%	15	21.1%	0.76
	病院/クリニック	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	0.53
	郵送検査	1	4.5%	3	6.1%	4	5.6%	1.00
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
過去6カ月間の利用施設（複数回答）								
	ゲイバー	9	40.9%	22	44.9%	31	43.7%	0.80
	ゲイイベント	2	9.1%	2	4.1%	4	5.6%	0.58
	ゲイショップ	2	9.1%	4	8.2%	6	8.5%	1.00
	有料のハッテン場	2	9.1%	9	18.4%	11	15.5%	0.48
	野外のハッテン場	1	4.5%	4	8.2%	5	7.0%	1.00
	いずれもない	11	50.0%	21	42.9%	32	45.1%	0.61

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾；その他；コロンビア、不明。

2) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

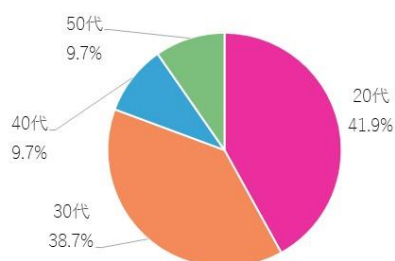
	アンケート回答のみ		検査利用		合計		Pearson
	n=22		n=49		n=71		カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	13	59.1%	34	69.4%	47	66.2%	0.43
全く/あまり知らない	9	40.9%	15	30.6%	24	33.8%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	15	68.2%	43	87.8%	58	81.7%	0.09
ない	7	31.8%	6	12.2%	13	18.3%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	4	18.2%	16	32.7%	20	28.2%	0.26
友達やセクフレ	10	45.5%	27	55.1%	37	52.1%	0.61
その場限りの相手	6	27.3%	16	32.7%	22	31.0%	0.78
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	10	45.5%	36	73.5%	46	64.8%	0.03
ない	12	54.5%	13	26.5%	25	35.2%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	2	9.1%	10	20.4%	12	16.9%	0.32
ない	20	90.9%	39	79.6%	59	83.1%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	5	22.7%	12	24.5%	17	23.9%	1.00
ない	17	77.3%	37	75.5%	54	76.1%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	1.00
ない	22	100.0%	48	98.0%	70	98.6%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	1	4.5%	2	4.1%	3	4.2%	1.00
ない	21	95.5%	47	95.9%	68	95.8%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
ない	22	100.0%	49	100.0%	71	100.0%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	10	45.5%	32	65.3%	42	59.2%	0.12
常用	5	22.7%	11	22.4%	16	22.5%	
過去6ヶ月間にない	7	31.8%	6	12.2%	13	18.3%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	9	40.9%	34	69.4%	43	60.6%	0.04
知らない	13	59.1%	15	30.6%	28	39.4%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	5	22.7%	7	14.3%	12	16.9%	0.01
服薬したい/どちらかといえば	4	18.2%	27	55.1%	31	43.7%	
知らない	13	59.1%	15	30.6%	28	39.4%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	4.5%	3	6.1%	4	5.6%	1.00
ない	21	95.5%	46	93.9%	67	94.4%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	0	0.0%	4	8.2%	4	5.6%	0.30
A型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
B型肝炎	1	4.5%	2	4.1%	3	4.2%	1.00
C型肝炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
クラミジア	3	13.6%	1	2.0%	4	5.6%	0.09
尖圭コンジローマ	0	0.0%	5	10.2%	5	7.0%	0.32
淋病	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	0.53
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	2.0%	1	1.4%	1.00
毛じらみ	1	4.5%	9	18.4%	10	14.1%	0.16
性器ヘルペス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	1	4.5%	1	2.0%	2	2.8%	0.53
いずれもない	19	86.4%	32	65.3%	51	71.8%	0.09

とうかいクリニック検査 アンケート集計結果

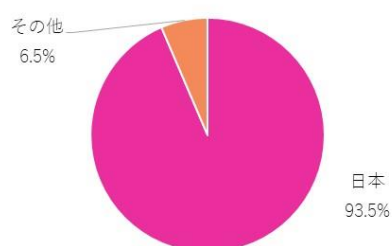
2020年度 全体



問1 年代(n=31)



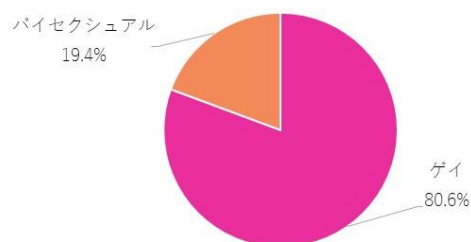
問2 国籍(n=31)



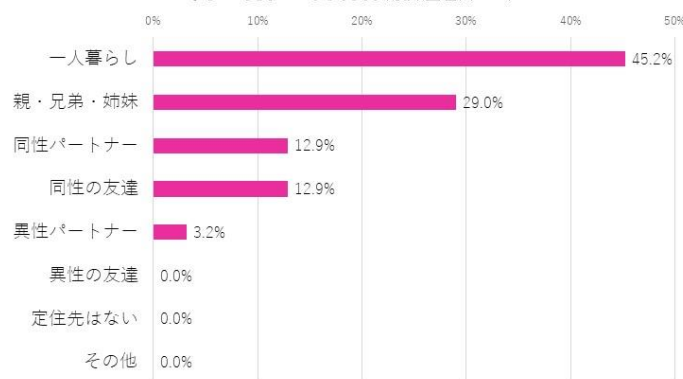
問3 居住地(n=31)



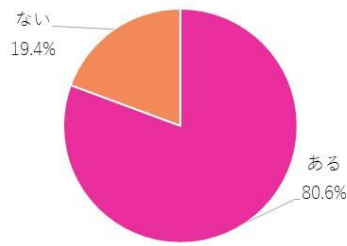
問5 セクシュアリティ(n=31)



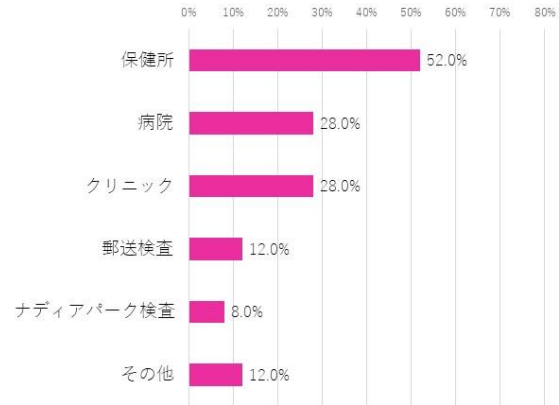
問6 現在の同居者(複数回答)(n=31)



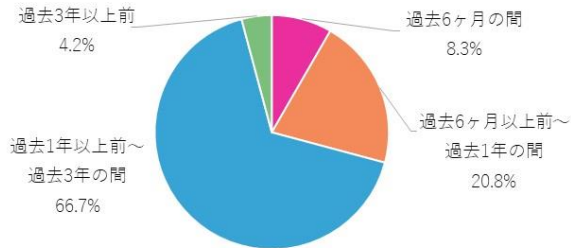
問7 HIV検査のこれまでの受検経験(n=31)



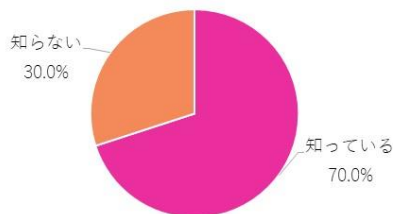
問7-1 過去1年間にHIV検査を受けた場所
(複数回答)(n=25)



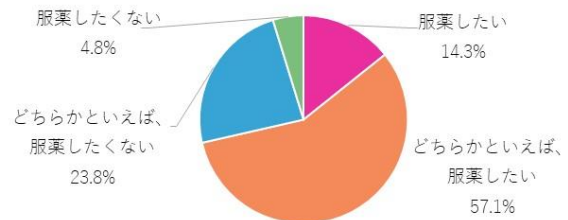
問7-2 直近のHIV検査の受検時期(n=24)



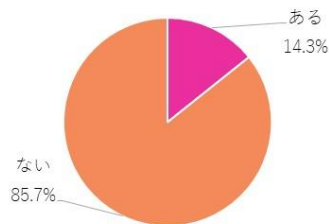
問8 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬
(PrEP)」に関することを知っているか(n=30)



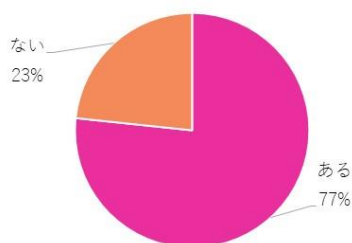
問8-1 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬
(PrEP)」の服薬希望(n=21)



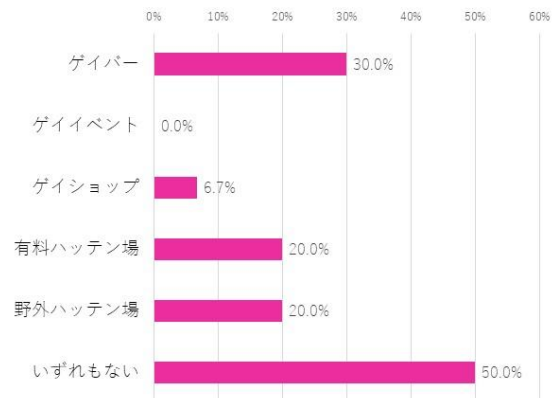
問8-2 過去6か月間の「HIV感染予防のための
セックス前の服薬(PrEP)」の服薬経験(n=21)



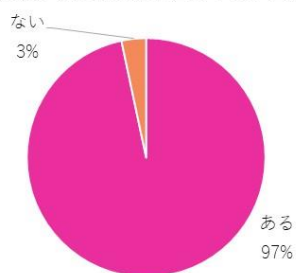
問9 「HIVに感染していても、抗HIV薬によって血
液中のウィルスが検出できないレベルになってい
る人は、セックスパートナーにHIVを感染させるこ
とはない」「U=U」ということを聞いたことはあるか
(n=30)



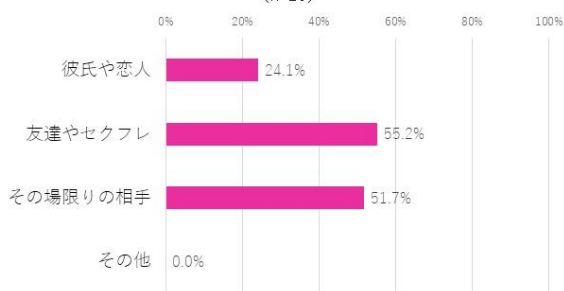
問10 過去6ヶ月間に利用したゲイ向け施設
(複数回答)(n=30)



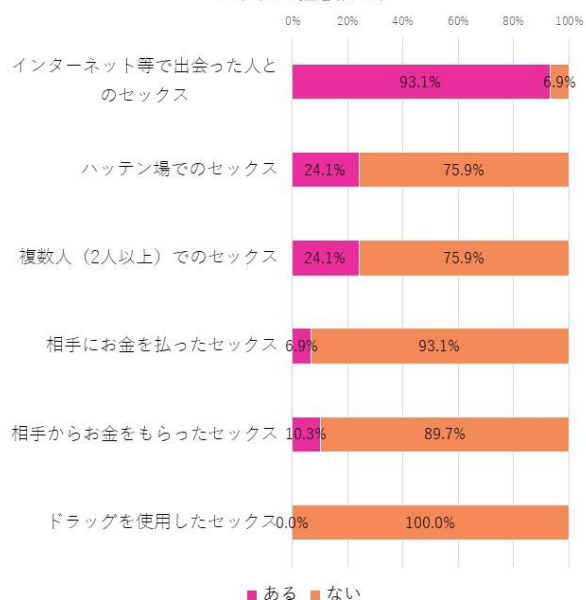
問11 過去6か月間の男性とのセックス経験(n=30)



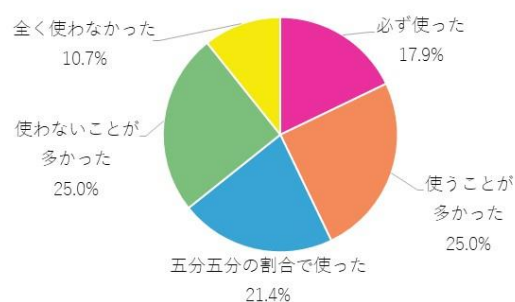
問11-1 過去6ヶ月間のセックス相手(複数回答)(n=29)



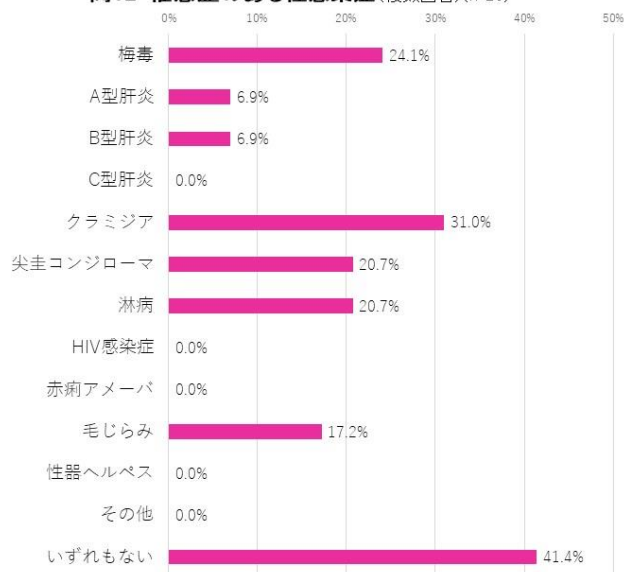
問11-2～11-7 過去6か月間の様々なセックス経験(n=29)



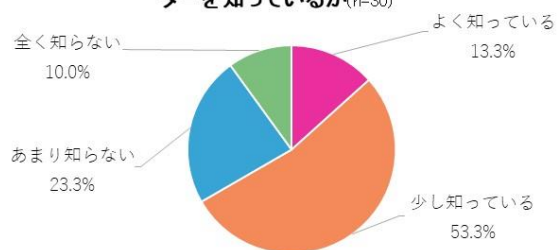
問11-8 過去6か月間のセックス時のコンドーム使用状況(n=28)



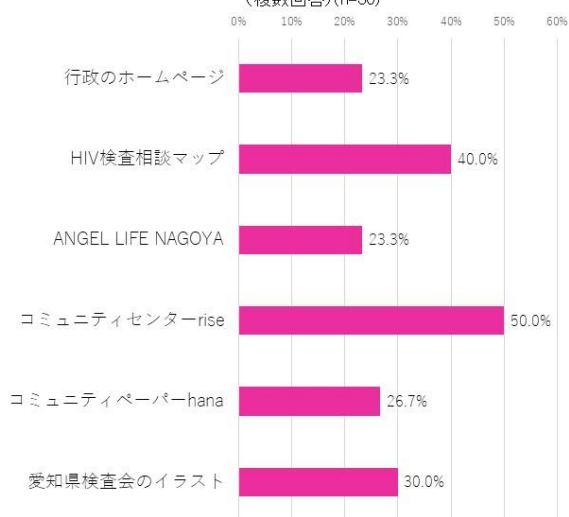
問12 罹患歴のある性感染症(複数回答)(n=29)



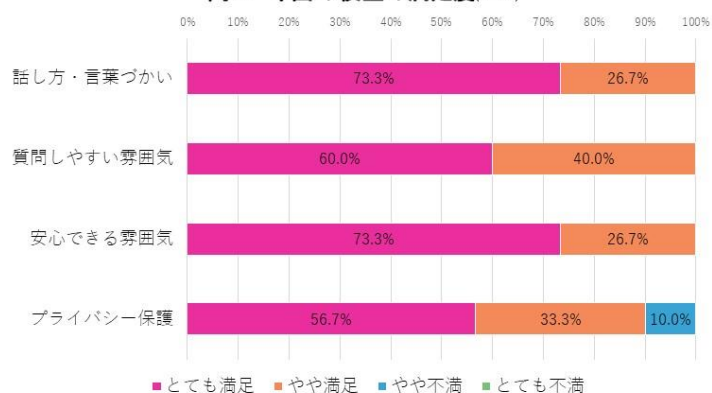
問13 MSM対象の予防啓発やコミュニティセンターを知っているか(n=30)



問14 HIV関係の印刷物やホームページ等の認知 (複数回答)(n=30)



問15 今回の検査の満足度(n=30)



自由記載：

- 匿名とは逆に、本人が陰性であるという証明書がほしい
- 受診歴があると告げると名前を尋ねられ、断りづらく名乗ってしまった。名前は聞かない前提で行ってほしかった。